

事後評価報告書  
(日本-EU 研究交流)

1. 研究課題名: 統合水素エネルギー利用システムの性能向上に資する水素貯蔵材料、及び貯蔵方法に関する基礎的研究

2. 研究代表者名:

日本側: 産業技術総合研究所(所属部署)エネルギー技術研究部門・水素エネルギー技術グループ 研究グループ長 中納 暁洋

相手側: Institute for Energy Technology(IFE), Physics Department Professor Bjorn C. Hauback

3. 総合評価: A

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

低温型システムと高温型システムを双方で開発し、それぞれの機関が有する高度な分析技術を補完的に活用することによって、水素貯蔵材料の解析を行ったことは十分評価できる。相手国側との共著による論文が4編出版され、特許も1件取得されたことから、綿密に共同研究が計画されたことがわかる。日本側は複数の研究グループが参画していて、広い視野で研究が進められたため十分な成果が得られているが、日本側から相手国側への研究者の長期派遣による実験実施に基づいた共同研究などがあれば良かったと思われる。日本側と相手国側の役割分担も明確であり、今後更に継続的に、共同研究が実施されることを期待する。

(2)交流活動の評価について

若手(ポスドク)を日本に招聘して実験を行わせるなど、若手の人材育成に取り組まれたことは評価できるが、日本側からの研究参加学生数が少なかった点は残念である。日本側の大学院生や若手研究者などの人材育成にも貢献できていたら、より好ましい国際交流事業になったと思われる。本課題に関するワークショップ・セミナーも日本側では多数行われているが、相手国側で行われていないことも残念である。

(3)その他

興味ある現象が見出されているので、是非、メカニズムの解明も行って頂きたい。